

流れの
先に

離島のくらしと産業を支える水

長良川から知多半島日間賀島へ

愛知県知多半島から約2.4km、三河湾に浮かぶ「タコ(多幸)とフグ(福)の島」として知られる日間賀島。面積0.77km²、人口2,000人余りの島ですが、年間約26.4万人(平成25年)*の観光客が訪れます。この島のくらしと産業を支えるため、水資源機構の施設である長良導水を通じて遠く離れた長良川から水道用水が運ばれています。今回はこの日間賀島について、水の利用を中心に紹介します。

* 愛知県南知多町ウェブサイトによる。

水はどこからどうやって

日間賀島の水道用水はどこからどのように運ばれているのでしょうか？

現在この島の水道用水は、当機構の長良導水施設によって長良川から取水され、地下を通る水路トンネルを通ったあと、愛知県の施設である弥富ポンプ場、筏川取水場を経て愛知県知多浄水場に導水され、浄水されます。水道用水はさらに知多半島内を南下し、南知多町の豊岡ポンプ場、大井配水池を経て、師崎の師崎送水ポンプ場から加圧圧送により海底送水管を通して日間賀島まで運ばれます。取水地点からの送水距離は約90km、うち海底送水管の距離は約2.1km(2条設置)に及びます。

今回の取材では、南知多町水道課の石堂課長及び鈴木主幹をお訪ねし、離島への水道用水の供給について伺いました。

離島への水道用水供給で特に留意するのは海底送水管の漏水管理とのことで、知多半島側からの送水量と島側での受水量の両データを常時チェックの上、その差分で漏水の有無が確認されています。また、島で漏水などのトラブルがあった場合には、夜間でも水道課職員の方が海上タクシーで島に駆けつけ対応をされるとのこと。離島を抱える南知多町ならではの水管理の苦労がうかがわれますが、職員の皆さんは、水道の安定供給のため24時間体制で奮闘していらっしゃいます。



長良川から日間賀島までの水の流れ



師崎送水ポンプ場
(上:外観 下:ポンプ施設等)



日間賀島配水池

日間賀島の発展と水道

日間賀島を支える主要な産業として、観光業と漁業を挙げることができます。

今回の取材では、日間賀島の観光業及び漁業の振興に携わっておられる、南知多町観光協会の鈴木会長及び日間賀島漁業協同組合の北川参事にもお越しいただき、島に水道が敷設された昭和30年代後半からの島の発展などについてお話を伺いました。

日間賀島は現在でこそ旅館や民宿が建ち並ぶ、観光業が盛んな島ですが、昭和30年代までは半農半漁の島で、水源がないため水不足で頻繁に生活水の確保に苦しみ、しばしば雨水を貯めて生活水としていたというお話でした。このような状況で新たな産業の振興も難しかったのですが、愛知用水の建設によって昭和37年に水道が日間賀島まで敷設されたことにより、状況が一変します。水不足の心配が減少したことで昭和40年代に民宿が建ち始め、名古屋から近いという地の利もあって観光客が絶えない島となりました。さらに、同じく水不足の心配が減少したことで、冬季の産業として新たに海苔の養殖も盛んになりました（海苔の製品化には、海から引き揚げた海苔の洗浄のために多量の水が必要。海苔洗浄の日の使用水量は通常の日約2倍になることもあるそうです）。かつての日間賀島では冬季に多くの方が出稼ぎに出ていましたが、海苔の養殖のおかげで冬でも島に働く場所ができて人々が定着し、現在でも島の活気が保たれているということです。

このような日間賀島の発展は、島の人々のこれまでの不断の努力に負うものであることは言うまでもありませんが、水道の建設もまたこの発展に大きく寄与したといえます。そしてその水は、かつては木曾川から愛知用水を、現在では長良川から長良導水を通じて水資源機構が供給しているものです。

水資源機構としては、日間賀島の発展に水の供給を通じて貢献できていること、及びそのために水道事業者である南知多町の皆さんが日々尽力されていることを肝に銘じ、今後も常に安全で良質な水を供給できるよう努めて参ります。



今回取材に協力頂いた方々（南知多町水道課石堂課長、日間賀島漁業協同組合北川参事、南知多町観光協会鈴木会長、南知多町水道課鈴木主幹 日間賀島いすず館 (<http://www.isuzukan.com/>) にて）

皆さんもぜひ日間賀島へ

日間賀島は、海に囲まれていることもあり、年中釣りを楽しむことができるほか、春は潮干狩りに夏は海水浴、さらにイルカとのふれ合いやシュノーケリング体験等多数の魅力的なアトラクションも開催されています。また、この島のキャッチフレーズであるタコ（1年中）とフグ（10月～3月）はもちろんのこと、しらす（3月～11月）、しゃこ（3月～6月）等々、年間を通じて多くの新鮮な海の幸を楽しむことができます。日間賀島に水道が敷設されてから養殖が始まった海苔のお味も秀逸です。名古屋から90分程度とアクセスが極めてよく、気候も年中を通じて温暖、また大変風光明媚なところですので、読者の皆様も日間賀島を訪ねられてはいかがでしょうか。



シュノーケリング体験
（日間賀島観光協会HPより）



名物フグ料理
（日間賀島観光協会HPより）



お土産に最適な日間賀島名産「島のり」



タコのモニュメント（左奥の建物が取材でお世話になったいすず館です。）

日間賀島観光の魅力は、日間賀島観光協会のウェブサイトにも豊富に載っています。トップページの写真等、デザインも美しいウェブサイトですので、是非ご覧下さい (<http://www.himaka.net/>)。

長良導水について

長良導水施設は、長良川河口堰の運用により利用可能となった流水のうち、知多半島地域の4市5町の水道用水として最大2.86m³/sを長良川河口堰の上流約1.7kmの長良川左岸において取水し、愛知県弥富ポンプ場までの約5kmを導水するための施設です。



長良導水取水口（三重県桑名市）